

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700063		
法人名	生月漁業協同組合		
事業所名	JFいきつきグループホームふれあい(ユニット名:くじら)		
所在地	長崎県平戸市生月町里免652-24		
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果確定日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4290700063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	令和2年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の能力の維持・向上のためにできる能力を低下させない介護を目指しています。家庭での生活に少しでも近づけて行ける様に安易な介助ではなく、一人一人に合った出来る事に着目し、その能力が向上できるように日々努力しています。その他にも午前の体操に加え、午後もち上がり運動を全員で行ったり、食後の団欒にも努めテーブルと囲みゆっくりと過ごす時間を設けています。最近では外出にも力をいれ、自宅訪問やなじみの場所へ出かけたり、地域のイベントへ参加したりもしています。利用者様が笑顔で過ごせるように工夫しながら支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の共有と実践の取組みのうち、法人の3つの運営理念に基づいて、くじらユニット、まんぼうユニットそれぞれユニット理念を作成して、スタッフが実践しやすい工夫を行っている。今後、理念の共有や実践の深化を目的として、文言の見直しも検討している。このような取組みに象徴されるように、ふれあいは現状に留まらず、常に進化していく姿勢を示している。この他にも地域との関わりについて、最終目標を認知症カフェの開催と設定していることや、職員の成長促進を目的とした、目標管理シートの作成と定期的な面談の実施等、運営面全般に改善していく意思を示している。最後に、ふれあいで働くスタッフ間のコミュニケーションが良好であるため、利用者様への支援内容も臨機応変に対応できる等、いい影響を及ぼしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のユニット会議で理念の復唱を行い、実践に繋げている。理念はユニット内の誰もが目に付く場所に掲示している。	ふれあいでは法人理念の文言に基づいて、それぞれのユニットに落とし込んだ、分かりやすい表現の理念を設けている。両ユニットの理念はわかりやすい内容で、いわば、行動指針として、スタッフは実践に移行しやすいものとなっている。また、法人理念の文言については、事業開設して一定程度経過したことや、もう少し簡潔にまとめて、運営に関わる皆が、より一層共有しやすい文言に見直しができないか、検討をしているとのことであった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントはスタッフを増員し全員参加に努めている。ドライブなども適時行い、その際地域の方々とのコミュニケーションにも努めている。	ふれあいとして地域とのつながりに厚みを増していくことが、次の課題の1つであるとのことであった。現状においては地域の行事に積極的に参加したり、各種ボランティアの受入を行ったり、地域住民との関わりを可能な限り保持している。次の展開の構想としては、介護事業を営んでいることを強みとした小規模のカフェの開催等、現存する資源を活用した、「地域住民がつながる場」の構築に向けて議論を深めていく方針であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られたご家族や地域の方々に対して、認知症の方の症状や支援の方法などについてお話をすることがある。また、毎月発行してる通信を通して認知症の方の気持ちや理解を得られるような文書作りに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開催している。市役所の職員をはじめ、8名の委員の方々と構成されており、意見交換が行われてサービス向上に努めている。	ふれあいの運営推進会議議事録を基にして、どのような状況で開催されているか、また、どのような議論が行われているのか確認することができた。今後の課題として、運営状況を報告した後に意見交換の場があるが、参加者からの意見をもう少し引き出したい点と、ご家族の参加者を増やしたい点であるとの認識であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や新しい取り組みにチャレンジする時など市役所へ電話で相談したり足を運んだりしながら、関係作りに努めている。	行政の職員と定期的に関わりを持つことができる場合は、運営推進会議の場であるが、それ以外にもグループホームの運営基準上の確認をする際に、電話等で確認することがあるとのことであった。運営推進会議の場では、季節に応じた感染症の予防的措置の推奨等、主に時事情報に関するアナウンスが行われているとであった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に取り組んでいるが、利用者様の安全を守るために玄関の施錠を時々行っている。ただし、24時間毎日行っているわけではなく、スタッフが手薄になる時間帯のみ施錠させてもらっている。	身体拘束や虐待廃止に関連して、法人組織として発信元となっている、身体拘束委員会を中心にして、協議や啓発等を行っている。実践状況に記載してあるように、玄関の施錠を時々行っているとのことであるが、このような措置を取った後は、振り返りを行うようにしており、施錠せずともできる代替策が他になかったのか意見を出し合っている。例えば、「家に帰りたい」という利用者様の要望に対して、人手が不足して対応困難な場合は、ご家族に相談の上で協力を要請する等、利用者様を取り巻く関係者皆で支援することを確認した。これからの課題としては、身体拘束に関するスタッフの認識の統一と、内部研修だけではなく、外部研修にも積極的に参加して、幅広い視野を持てるようにすることとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアにおいて虐待となり得る行為について話し合ったり注意したりしながら虐待防止に努めている。またスタッフが一人で悩みや苦勞を背負い込まないように情報を共有し皆が同じ悩みを共有していることを知ってもらい心にゆとりができるような支援にも努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員の認識ができていないので職員全体で制度について学ぶ機会が必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの項目について説明し、不明な点がないかなど確認を行いながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方はその都度要望など聞き取り管理者へ伝え反映させている。家族の方は面会に来られた際に声掛けを行い、意見や要望を聞き取り、家族の思いに近づけるよう努力している。	利用者様やご家族の要望は、日常生活の中や、面会時に確認することが中心となることであった。ご家族のうち、遠方に居住している方に関しては、ご兄弟や親戚が代わりに対応してくれるため、関わりに関しては特に問題ない様子であった。また、家族会を定期的に開催しているが、今年度は感染症の関係で開催を見合わせたとのことであった。このように日常的な関わり以外にも意見を表出する機会はあるが、今後の課題としてもう少し家族会の参加者を増やすことができるように、工夫が必要との認識を示されていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望はその都度聞き入れ、反映できることには対応し、働きやすい環境作りに努めている。	スタッフの意見や提案を聞く場面としては、日常の業務の中や、日々のミーティングの場が中心となっている状況とのことであった。この他に、月に1回定期的に行っている、ユニット毎のユニット会議の場でも意見交換をしている。スタッフの要望等については、まず主任が意見集約した後に管理者へ報告される。その後は内容を鑑みて、代表者へ上申する仕組みを確認した。今後はスタッフのレベルアップやモチベーションアップの目的で、目標管理シートを活用した、定期的な面談を検討しているとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や有給取得などスタッフのモチベーションアップにつながるよう事業所側は努力してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員の問題や研修場所等の問題で外部研修参加は困難な状態にあるが、一人一人にあった研修に参加できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の事業所での交流は全くできていない。交流を図り他事業所の取り組みなど勉強し、当事業所のサービスの質が向上できるよう改革を図りたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が自分の思い話せるように言葉選びや声のトーンなどに配慮し、話しやすい雰囲気作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、不安な事や思いに傾聴し、今後どのような姿を求めているのか聞きとり、施設側としてどこまでその理想に近づき支援できるのかを十分に話し合い、信頼関係の構築に務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いま必要としているサービスが本当に当事業所なのかアセスメンから判断し、他の事業所などの紹介なども同時に検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の身体状況に合わせた日常的作業（食器拭き、洗濯物たたみ、片付け）を互いに協力、助け合っていると実感できる努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訴えや利用者との関り方など面会時に話を聞き、家族と共に本人を支えられるようコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	繋がりが途切れないように配慮に欠けている点があったが、これからは利用者の意向を聞き、イベント等への招待やいつでも会いに来やすいように手紙や葉書なども検討し、外出支援ももっと行っていきたい。	ふれあいでは利用者様にとって、一番身近なご家族との関係を大切にしたい思いから、今後、利用者様の誕生会に対象となるご家族を招待する企画を検討している。敬老会等のイベントへの参加を促してはいるが、各利用者様一人ひとりのオンリーワンの企画を実現することで、関係継続の支援を持続的に行う方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や身体、精神状態を配慮した座席の検討を行ったり、共に関わることをできる作業を行い見守りながら支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の特性から外出先で姿を見かけたりすることも多いので、声を掛けたり、退所後の経過について尋ねたり世間話をしたり現状の把握に努めている。退所後の関係作りも心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から日常会話を通して本人の思いや意向の把握に努めている。	日常生活の中で、利用者様に寄り添い、穏やかにゆっくりと会話をする中で思いや意向を把握するように努めている。把握が困難な利用者様は表情や行動をよく観察し、スタッフ間で日常的に話し合い、思いを汲み取るように努力している。把握した利用者様の思いや意向は「連絡ノート」に記入してスタッフ間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の可能な方には本人に直接尋ねてこれまでの生活の情報収集を行っている。本人の記憶が曖昧な時はご家族や面会に来られた方に聞いたり生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムに合わせ、その日の身体状況、精神状態に柔軟に対応したケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原案をもとに目標やサービス内容を関係者で作成し、定期的にモニタリングも担当者を含め行っている。	介護計画に沿ってサービスが実践されているかを、担当スタッフと管理者（ケアマネジャー兼務）が3か月ごとにモニタリングを行い、6か月ごとに評価し、それを基に介護計画原案を作成している。家族の要望や意向は面会時に把握し、サービス担当者会議（ご家族、管理者、スタッフ参加）で介護計画原案を検討し同意を得ている。サービス担当者会議にご家族が不参加の場合は、面会時に説明し同意を得ている。利用者様の状態変化時はアセスメントを行い、サービス担当者会議で話し合い介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、夜勤日誌に時系列で詳細に記録を残し、改善に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望等の症状があれば散歩など気分転換を図ったり、その都度、ニーズに対して何らかの対策をとり、対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現時点で配本サービスや移動パン屋、訪問理容などの地域資源を活用している。移動販売での購入を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診、その日の体調による臨時受診など、提携の医療機関へ必要に応じ適切に医療を受けている。	利用者様やご家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。受診はスタッフが同行して、利用者様の状況を主治医に報告している。受診結果は電話でご家族に報告しているが、状態が変わらない場合は面会時や「家族への手紙」に受診結果を記入してご家族に郵送している。受診結果や主治医の指示内容、薬の変更等は「申し送りノート」に記入してスタッフ間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	くじらユニットは個々の日々の変化や気づきを細目に相談、対応、受診の判断ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側との連携は取れているとは言えない。入院中の経過や退院時の話し合いもされていない状況なので、連携の部分は力を入れていかなければならない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調や症状に合わせて、最終的な方針の話し合いを行っている。施設で出来るケアには限界があるので、そこを十分に説明し、ご家族や本人の意向に沿ったケアができるように取り組んでいる。	入所時に、重度化した場合や終末期に対するふれあいの方針、対応しうる支援内容をご家族に説明している。利用者様の状態変化のたびに、ご家族も受診に同行していただき、主治医、ご家族、管理者と話し合い、今後の方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の対応は不十分であるため、研修会や施設内での勉強会を行い、知識、技術の向上を図る必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回不定期に消防署の方の指導の元、職員・利用者共に避難訓練を実施している。	年2回、消防署の立ち合いのもと避難訓練を行い、消防署からの指摘を受け、次の訓練に活かしている。避難訓練以外にも、消防署によるAED研修や消火器の使い方の指導を受けている。「施設避難計画書」に災害マニュアルや利用者様の情報、ハザードマップを綴じて、避難時に持ち出せるように準備している。災害発生時に備えて、飲料水、缶詰等の備品を準備し、「火気、防火管理チェックリスト」で毎日点検を行い、防火対策に努めている。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録や個人データなどは外部の目の届かない場所に保管を行っている。名前の呼び方において、接遇の技術が不十分である。	利用者様、一人ひとりの生活歴や性格に応じた言葉遣いに配慮している。援助が必要な場合も、利用者様の誇りを傷つけないように、さりげない言葉かけや対応を心掛けている。また、利用者様の個人情報は各ユニットのスタッフ室に保管している。	年長者として敬意を払い、利用者様の尊厳に配慮した支援を続けていきたいとのことであった。まずは、ふれあいとして目指す接遇のあり方（例えば名前の呼び方等）を検討し、それに基づく研修等を行うことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望する事柄においては可能な限り沿うよう心掛けている。無理な場合には理由を伝え、代用できないか等一緒に考え検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れを優先する傾向がある。ほとんどの利用者は臥床を好む傾向にあるため、ペースを大事にしつつ廃用性症候群に陥らないよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びはほぼスタッフが行っている。本人の好みを聞きながら選ぶようにしていきたいと考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のエプロンの設置、食後のお盆拭き、食器拭きなど一緒に協力して出来ている。	給食委員会で1か月分の献立を作成し、調理員が調理している。利用者様の状態に応じて野菜の皮むきや食器拭き等を一緒に行っている。利用者様の状況に合わせた食事形態を工夫し、利用者様が使いやすい食器やスプーン、箸を検討している。天気の良い日はウッドデッキで食事をする、ドライブに出かけ外食を楽しむ、裏庭で花見をしながら弁当を食べる、誕生日には利用者様の好みのメニューを用意する等、食欲を高めたり、食事への関心を引き起こす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量のチェック、脱水傾向や夏季には水納バランスチェックも個々に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを実施するよう声掛けや支援を行っている。義歯洗浄も毎日夕食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のオムツからポータブルトイレへ移行者が2名、夜間ポータブルトイレからトイレ誘導者が1名など排泄への自立には力を入れている。	「排泄チェック表」で利用者様の生活リズムを把握し、サイン、動きを観察してトイレに誘導する中で、オムツからリハビリパンツで過ごせるようになった利用者様もいる。利用者様の習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理は個々に毎日チェックしており、便秘時には水分摂取、運動、マッサージなど指導を行い、また主治医と連携し看護師が下剤の調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわらずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯が決まっているのが現状だが、自分のペースで入浴できるようゆっくりと急がせない入浴を心掛けている。午後からや夜入りたいなども希望があれば検討したい。	衣類の着脱を利用者様のペースに合わせて見守りながらゆっくり行う、利用者様の羞恥心に配慮して入り方を工夫する、好みの入浴時間や入浴剤、機械浴等、利用者様の身体状態や習慣、好みに合わせて個別に支援している。脱衣所には、トイレを配置し、エアコンで室温を調整する等、快適な環境を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいときには自由に休憩を取っている。昼食後は居室で午睡をとったりテレビを観たりゆっくり過ごす事が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は朝昼夕と色分けし、服薬前に口頭によるダブルチェックと残薬確認を行っている。利用者様がどんな病気どんな薬を服用しているのかスタッフは理解しておく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事の提案を行ったり一緒に教えないあなが作品作りを行ったりしている。できる作業は積極的にしてもらおうようスタッフに指導している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅前での写真撮影やその際近所の方々との交流も行った。これからも時々住み慣れた奈所へ出かけ、心の安定を図りたい。	利用者様の思いを汲み取り、ご家族に協力を求めて自宅に行く、ご家族と一緒に外食を楽しむ、天気の良い日はドライブに出かける、玄関前での日光浴、裏庭の小道を散歩する(車いすでも快適に散歩ができる)、庭の桜が満開の季節は、ご家族と共に花見をする、馴染みの美容室に行く等、一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。また、受診時に地元の方々と話しをすることも楽しみの一つになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手持ちしている人は現在2~3名で時々移動販売や病院受診時パンやジュースなどの購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については時と場合により、対応している。しかし、ほとんどの利用者様が電話をかける事はない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにフロアの飾りつけなどを変えて季節感を出している。広いトイレはヒートショックをおこさないようエアコンで温度管理している。	玄関には、消毒用アルコールや除菌用噴霧器、加湿器を設置し、1日2回掃除を行い、手すり、椅子、机等のアルコール消毒を行う等、感染予防に努めている。利用者様と共に作成したちぎり絵や習字、手芸品を飾ることで季節を感じる事ができるように工夫している。玄関横の多目的ホールでは、体操やレクリエーション、夏祭り、行事のお祝い等を行っている。また、ふれあいの建物を囲むようにウッドデッキがあり、そこから続く裏庭に小道を作り、利用者様が日常的に外気浴ができるように環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席はほぼ決めているが、その日の気分によって移動可能な状態にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の使い慣れたものなどを居室に設置可能でロッカーや位牌なども持ってきている方もいる。	居室のエアコンのフィルターを月1回掃除して感染予防に努めている。利用者様の身体的状況に応じてタッチアップを設置する、畳を敷いて布団に寝ることで立ち上がりのリハビリを行う、利用者様の動線を観察して家具の配置を工夫する等、利用者様が安心安全に生活できるように配慮している。また、家族の写真や利用者様の作品を飾り、テレビを置く等、利用者様一人ひとりの好みや状態に合わせて個別に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや居室入口の名前プレートを利用者の目先に下げて分かりやすくしている。日頃使うティッシュ、紙のごみ箱など取りやすい場所に置き、いつでも自分でとれるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700063		
法人名	生月漁業協同組合		
事業所名	JFいきつきグループホームふれあい(ユニット名:まんぼう)		
所在地	長崎県平戸市生月町里免652-24		
自己評価作成日	令和元年 12月8日	評価結果確定日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4290700063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	令和2年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の楽しみとなるように毎月ユニットでのレクリエーション活動に取り組んでいる。季節に合った作品作りや食レクを企画し、手作りにこだわり一緒に行っている。出来上がった作品はリビングに飾り、完成を喜んだり、季節感を味わいながら過ごしている。レクリエーションを通してリハビリや脳の活性化に繋がればと思いつきながら、一緒に楽しく活動を実施している。夏は暑く、冬は寒いという気候や利用者様の体調などを考えると外出なども難しい状況にあるので、屋内でいかに退屈せずに過ごす事ができるか考え、これからも楽しみを持って過ごせるように支援していきたいと考えている。少人数対応のグループホームだからこそできる取り組みを工夫しながら行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ室や廊下等、目の付くところに掲示している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時には近所の保育園や地域のサークルなどを招いたり、月一回の本の読み聞かせボランティアなどとの交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会に来られたご家族や知人の方に対して認知症についてお話をすることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行っていて、事業所の報告を通しご意見などを頂き、運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったこと、分からない事があればその都度、相談・連絡を行い連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット内は自由に行動できるようにしている。外に行くときはスタッフ同行で危険がないように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自覚をもって虐待を見過ごさないように注意しあい、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでに権利擁護制度を利用された方がいないので、そのような制度を活用できるように外部研修等で知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約・解除・改定の際に書面に沿って説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話をしている時に様子を伺いながら尋ねたり面会に来られた時に要望や意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議を行い、話し合いを実施している。その際にでたスタッフからの意見や要望、提案などを管理者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断、仕事に意欲が持てるように係を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近場での研修があまりないが、時々研修に参加させてもらい、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は殆どない。交流を図り、他事業所の取り組みや対応等を学び、仕事に活かしたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が訪問し本人の思いや不安な事などを聞き出し、サービスを安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が家族と相談しながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況や状態を確認し客観的に様々な視点を持ったうえで必要な支援に努め、いろんな選択肢があることを伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てをスタッフが行うのではなく、利用者様が出来る事は手伝ってもらいながら、協同して生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お手紙を出したり、様子を知らせたり、面会時にも本人を支えあっていくよう情報交換をしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の関係者が気軽に訪ねて来やすい雰囲気作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特徴を考慮し座席を決めている。居室入室以外は同じテーブル付近に集まり共に時間を過ごして居る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談におうじられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や状態から何を伝えたいのかを察し、また、把握に努め職員間でも共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や会話の情報をもとにスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決められた日課・時間以外は個々で自由に過ごして頂き、記録や状況確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議の中で個々の状況確認をして、支援方法をスタッフ間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りをしながら情報を共有している。連絡ノートも必要に応じ活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一つの方法に捉われず、その人に合った支援方法をみんなで話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や配本サービス、パンの移動販売等を活用し、生活の質が少しでも向上されるように支援している。活用できる資源があれば、どんどん利用していきたいと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が対応できない場合は施設で対応している。日頃の状態を主治医へ報告している。不安なことがあれば、相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	片方のユニットに看護師が勤務しているので、心配事や状態の変化があるときは相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中にADLの低下や認知症の進行がみられるので、出来るだけ早く退院できるように病院や家族と相談を行いながら、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階、もしくは入院をきっかけに最後をどのように迎えたいと考えているのか家族の意向を聞き、施設で対応できる部分、出来ない部分を伝え、話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な訓練は出来ていない。看護師もいるので勉強会などを開き、技術や知識を習得し、いざという時に備えておきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防署の協力の元、避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時はカーテンの使用、排泄時は出入り口に「使用中」の札を掛けてプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思で決定できるような声掛けを行い、自己決定を促している。また自分の思いを伝えられるようにコミュニケーションを図り、希望や思いを引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課に沿って、その人の体調や状態を考慮しながら、利用者様が自分のペースで希望に沿った形で日常生活を送れるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣替えや訪問理容を利用している。また敬老会などのイベントの時は普段よりきれいな洋服を着て、女性はメイクをしたりなどお洒落を楽しめるような支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた献立を作成し提供している。以前は食器やお盆拭きと一緒にしていたが、今はADLの低下や認知症の進行により出来ていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量のチェックを行い、個々に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じた口腔ケアの支援を行っている。介助が必要な方には仕上げ磨き、義歯洗浄、うがいの支援を行い、口腔内を清潔にたもち、誤嚥性肺炎の予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用に、その人に合った排泄パターンへの声掛けや誘導を行っている。オムツや居室でのポータブルトイレの使用を減らし、トイレで排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し下剤や乳製品を活用しながら排便コントロールを行っている。長期間の便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日が決まっているため、個々の希望に沿った支援は出来ていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように日中の過ごし方に気を付けている。強い刺激を与えずに努めている。また室内の温度や寝具、採光などにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は誤薬がないよう二重チェックを行い支援している。服薬後に体調の変化がないかなど様子観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事用エプロンや洗濯物たたみ、ゴミ捨てなど役割を決め、お手伝いをしてもらっている。役割を持つことで張り合いに繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人の体調を見ながら、ドライブを計画したり、家族の希望があれば家族と一緒に外出できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様でお金を所持している方はいない。すべて事務所で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とも話し合ったうえで、本人より希望・依頼があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に応じて採光・温度調節を行っている。リビングは季節感を取り入れた飾りつけの工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室とリビングを行き来できるようにしている。どうすれば良いかわからないという方には声掛けしながら、居場所の選択を促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の要望に応じ時計や家族写真を置くなど安心して過ごせる空間となるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーという環境で、安全に自由に施設内の移動ができる。居室にはネームプレートを掛けることで自分の居室に迷わずに行けるようにしていたり、少しでも自立した生活が送れるように工夫し支援している。		